



(第816回)

家根合地区と子どもたちが一体となった「魚の学習会」(2024年10月29日)

庄内町家根合地区で、余目第一小学校4年生の「魚の学習会」を開催しました。田んぼに給水する調整池の水を落とし、最上川から入ってきた様々な魚を捕まえて、子どもたちが観察します。家根合地区の農家と最上川土地改良区や県庄内総合支庁が協力して、毎年実施している体験学習です。

今年は、コイ、ニゴイ、タモロコ、モツゴ、ゲンゴロウブナ、オイカワ、モクズガニなど16種類の魚を捕まえました。絶滅危惧Ⅱ類のスナゴカマツカ、カワヤツメ、スナヤツメ、マルタニシも見つかりました。

土地改良区の後藤直人さんが魚の先生役となり、子どもたちは、捕まえた魚はどこからやってくるのか、それぞれの魚にはどのような特徴があるのかを教えてもらい、夢中になって話を聞きながら魚を観察していました。

山形大学農学部の大大学院生も参加して、魚の調査を行いました。今年、めだか米の田植えと稲刈りを体験し、「魚の学習会」が最後のカリキュラムです。来年、新しい4年生が家根合地区と一体となった農業体験学習を行います。

【取材 R6/10/17：庄内PJA北川】





月山高原の雄大な自然の中で、みんなで楽しく収穫イベント(2024年11月6日)

鶴岡市羽黒町の月山高原畑団地で、月山ろく環境保全会（運営委員会代表 鈴木昭夫さん）が収穫祭イベントを開催しました。農作業を体験することで、月山高原の畑団地に対する関心と愛着心を高めてもらおうと平成27年から実施しています。

今年は、鶴岡市、酒田市、三川町などから、子ども連れ家族ら過去最高の約100人が参加して、6月に植えたサツマイモとサトイモの収穫作業を行いました。

時折、小雨が降る天気でしたが、参加者は、大きく絡み合ったサツマイモのつるを力いっぱい引っ張り、さまざまな形に成長したサツマイモを次々に引き抜きました。そして、葉と茎が大きく成長したサトイモの親芋についている子芋を外して、袋いっぱい収穫しました。

「6月に植えた苗が大きく成長しているのでうれしいです」「収穫作業は初めての体験です。子どもと一緒にイモ掘りを楽しみます」と言ってとても喜んでいました。

最後に、保全会の鈴木昭夫代表が先生役となり、月山高原畑団地とサツマイモについてミニ勉強会を行いました。来年のイベントが待ち遠しいです。

【取材 R6/10/20：庄内PJA北川】





遊休化した農地を復活させる、地区住民の取り組み(2024年11月13日)

鶴岡市羽黒町の手向（とうげ）地区環境保全会（会長 山本啓さん）が蝦夷館（えぞたて）公園隣の畑で、サツマイモの収穫と焼き芋体験を行いました。

この畑は、所有者が高齢化して保全管理することができなくなり、遊休化して草木に覆われた農地でした。手向地区には多くの観光客が訪れて目にする場所ですので、「景観が悪い畑を放置することはできない」と保全会が立ち上がり、自治振興会（会長 勝木正人さん）と協働して畑を復活させたのです。

当日は、手向地区の住民が参加して6月に植えた紅あずまの収穫作業を行いました。予め、強く大きく絡み合ったサツマイモのつるを刈り取っておき、参加者は丸裸の畝からさまざまな形に成長したサツマイモを掘り上げました。作業が終わると、焼き芋と芋煮汁、新米のおにぎりをみんなで食べて秋の収穫を喜びました。

手向地区は、1400年を誇る山岳信仰の伝統と住民によるまちづくりの取り組みが評価を受けて、「2024世界の持続可能な観光地トップ100選」に選ばれました。

保全会は、遊休農地を再生する住民の取り組みを続けていきます。

【取材 R6/10/26：庄内PJA北川】





(第819回)

子どもたちと田んぼの生きもの調査 (2024年11月19日)



ほ場整備工事を予定している鶴岡市羽黒町の中川代地区で、動植物の生息状況を確認する「生きもの調査」を実施しました。今回は地区の子どもたち7名も参加し、地区内の素掘りの土水路周辺で魚や昆虫を捕まえました。

調査の結果、準絶滅危惧種のおオタニシやヌカエビのほか、昆虫や魚類など15種の生きものと多数の植物が確認されました。

調査に協力いただいた有識者からは「他地区に比べて見つけた種類が多く、個体のサイズも大きいことから、生きものの生息環境が整っている地区である」とのコメントをいただきました。

素掘りの土水路は生きものにとって住みやすい環境である一方、農家さんは日々の維持管理に苦労しています。生きものの生息環境を保全しつつ、農家さんの負担軽減を図ることのできるほ場整備計画となるよう、今後も話し合いを続けていきます。

【取材 2024年11月4日：庄内PJA 池田】





(第820回)

山新3P賞おめでとう！田んぼを使って絶滅危惧種の野生メダカを守る(2025年1月6日)

第68回山形新聞・山形放送の「3P賞」で、庄内町家根合（かねあい）地区のNPO法人家根合生態系保全活動センター（理事長 大井 庄一さん）が「地域の平和（ピース）賞」を受賞しました。

家根合地区では、余目第一小学校のカリキュラムとして、地域と一体となったメダカ保全活動を実施してきました。

平成11年に余目一小5年生の総合学習で絶滅危惧種の確認調査が行われました。

ほ場整備が始まると水路がなくなりメダカの住みかがなくなる。「メダカを守りたい！」という強い思いが子どもたちに芽生え、その思いが農家、土地改良区、JA、庄内町、県総合支庁を巻き込み、「メダカSOS救出作戦」という大きなうねりとなって保全活動が始まりました。

子どもたちのメダカ保全活動は、メダカが泳ぐ田んぼの田植えと稲刈り体験、メダカの放流と引っ越し、そして魚の学習会までの、一連の活動です。

子どもたちと地域が一体となったこの活動は、今年で27年目を迎えます。

【投稿 令和7年1月6日：庄内PJA北川】

